

# 彩の歳時記

平成二十三年 七月

日本の海岸の美しさを表す言葉に「**白砂青松**」があります。**白い砂浜に青い松**のコントラストは、目にも鮮やかな光景。「**白砂青松百選**」の一つ、陸前高田市の二キロに及ぶ「**高田松原**」は津波により約七万本もの松が失われました。一本だけ残った松は、復興のシンボルとして保存する為、接ぎ木が行われ、成功したとの事です。また「**白砂青松**」は、日本画(山水画・水墨画)だけでなく、西陣織物など伝統工芸作品のモチーフとしても多く採りあげられる光景、再び日本を代表する景色になることを願いたいものです。



龍村光峯作

西陣織画「白砂青松」↓

## 七月の異称

**文月**(ふみづき) は、短冊に字を書き、書の上達を願った七夕行事に因む。

「**文披月**(ふみひらきつき)」が転じた事から、**七夕月・七夜月・愛逢月 女郎花月**なども言う。

## 七月の暦

一日 山開き・海開き

葉が半分化粧したような半夏 ↓



二日 **半夏生**【**雑節**】**半夏**(鳥柄杓)が生える頃。稲が蜻の足のように広がることを願い「蜻」を食べる方や、讃岐では**鯺鮓**(うどん)、福井では**焼鯖**(やきさば)を食べるなど、地方様々の習慣がある。

六日 **サラダ記念日** **俵万智**【1962〜】が1987(昭和62)年に出した歌集『**サラダ記念日**』の中の一首

「この味がいいねと君が言ったから七月六日は**サラダ記念日**」に因る。  
この歌集がきっかけで**短歌ブーム**が起き、色々な「記念日」ができるようになった。

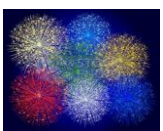
七日 **小暑**【**二十四節気**】梅雨が明け、暑さも本格的に。この頃、暑中見舞いを書き始める。



**七夕** 川に棚を作り、盆に戻る祖先の霊の為に布を織る女性「**棚機つ女**(たなばたつめ)」が



「**たなばた**」の由来。日本三大七夕祭に「**仙台七夕・平塚七夕・安城七夕**(愛知県)」今年の**仙台七夕**は八月六日〜八日。五日には、東日本大震災の遺族へ「**鎮魂**」の意をこめた慰霊花火を演出、打ち上げられる。



九〜十日 **鬼灯市**(**浅草寺**) この日、参拝すると**四万六千日**お参りをしたのと同じ**利益**が

あるとされ、江戸時代から多くの参拝者で賑った。**鬼灯**は枝付きで盆棚に飾り**死霊**を導く**提灯**に見立てる。**鬼灯**や**小銭**は**さみし昼夜帯** **万太郎**



十五日 **お盆** 祖先の霊を供養する行事。この日は新暦で、**東京・横浜**などが主。現在、メディアでは、多数派である**八月中旬の旧盆**を「お盆」と称する為「お盆」と言えば、**月遅れのお盆**「**八月十五日**」を指すことが全国的になりつつある。

十八日 **海の日** 海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う国民の祝日。

二十日 **土用丑**(どううし)の日 鰻を食する習慣は**平賀源内**【1728〜1780】の発案とか。

## 七月の歌

軍歌「**我は海の子**」(1910年)とならび歌われてきた海をテーマとする唱歌。

「**島山**」は、山の形をした島のこと。「**著き**」は、際立ってはつきりしたの意。「**漁火**」は、魚を寄せるための灯り。「**浦風**」は、入り江に吹く風、「**沙**」は、小さい石や砂。ゆったりとした三拍子(タタタタンタンのリズム)の美しい旋律は、波が岸に打ち寄せる様を思わせます。

一番は昼の海、二番は夜の海と対照的な海の表情が印象的な詞。



松原遠く消ゆるところ  
白帆(しらほ)の影は浮かぶ。  
千網(ほしあみ)浜に高くして、  
鷗(かもめ)は低く波に飛ぶ。  
見よ昼の海。見よ昼の海。  
島山(やま)に著(しる)きあたり、  
漁火(いさりび)光 淡(あわ)し。  
寄る波岸に緩(ゆる)くして、  
浦風(うらかぜ)軽く沙(いさご)吹く、  
見よ夜の海。見よ夜の海。